

# 種苗放流効果調査（アワビ）

## （ 要 旨 ）

勢村 均・由木雄一・石田健次

### 1. 多伎町小田地区

昭和60年7月22・23・30日に図1に示す保育場西側より小田にかけて6線のライン調査(ライン長100m)を行った。調査結果は表1・2に示した。

底質は各ラインとも岩盤を基礎とした底質型が優占した。水深は1～4mの範囲であった。

優占した海藻類は各ラインともモク類であった。

大型動物はバフンウニ・ム

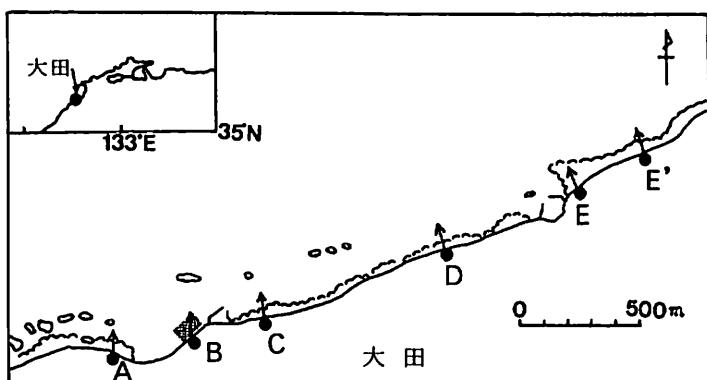
ラサキウニ・アカウニ・クロアワビ・サザエ・トコブシ類が出現した。最も多く出現した種はバフンウニであり、次いで、ムラサキウニ・アカウニの順であった。クロアワビは保育場を含むラインでのみ出現した。

### 2. 仁 摩 町

昭和60年6月18日に調査を行った。ブロックに着生していたアワビはクロアワビであった。発見個体数は0～5個体/4ブロック(平均2.3個体/4ブロック)であった。殻長は天然アワビが3～12cmの範囲であり、放流アワビは殻長3cmであった。

サザエは1個体出現した。海藻類は8種出現し、優占種はモク類およびウミウチワであった。また、設置されたブロックで、砂に埋没または半埋没しているものが観察された。

( 詳細は「沿整協会ニュースNo.30、昭和60年度年間報告版」島根県沿岸漁場整備開発協会を参照のこと。 )



アワビ人工礁域

図1 調査点

